

昇仙峡リバイバル会議  
委嘱状交付式及び第1回会議録

日 時 令和元年11月20日(水) 15時30分～17時00分

場 所 山梨県防災新館4階407号室

出席者 東徹委員、雨宮正英委員、志村忠良委員、笹本健次委員、新井達司委員、

欠席者 内山しのぶ委員、芦澤卓夫委員、須山忠委員

委員以外の者 吉田均様、小笠原裕二様、小林明様

事務局 <甲府市>有賀観光商工室長、渡辺観光課長、中澤観光課係長、

<甲斐市>大寫生涯学習課係長(飯沼生涯学習課長代理)

<山梨県>山岸観光部次長、菊島観光部政策企画監

## 次第

### 1 委嘱状交付式

### 2 議事

#### 議題

- (1) 設置要綱について
- (2) 委員の紹介
- (3) 事務局紹介
- (4) 委員長等の選任について
- (5) 会議の趣旨について
- (6) スケジュール(案)について
- (7) 調査内容(案)について
- (8) その他

### 3 事務連絡

#### 【事務局】

議題(1)「設置要綱について」説明

— 要旨 —

本会議の所掌事項は、昇仙峡を取り巻く現状及び課題に関する事、昇仙峡の更なる魅力向上及び誘客等への対応策に関する事、昇仙峡リバイバルプランの策定に関する事、その他昇仙峡の再活性化に必要な事項である。

その他、組織等については要綱を確認していただきたい。

**【事務局】**

議題(2)「委員の紹介について」事務局より説明

**【事務局】**

議題(3)「事務局の紹介について」事務局より説明

**【事務局】**

議題(4)「委員長等の選任について」

設置要綱第4第1項の規定により、委員長及び副委員長を各1名置くこととなっており、第2項にて、委員の互選により定めることとなっておりますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

事務局に一任。

**【事務局】**

事務局案として、委員長を東委員に、副委員長を雨宮委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

異議なし。

**【事務局】**

ご承認いただきましたので、委員長は東委員に、副委員長は雨宮委員にお願いします。

設置要綱第5第2項の規定により、本会議の議長は委員長が務めることとなっておりますので、ここから先は東委員長の進行で会議を進めていただきます。

**【委員長】**

この会議では、「良い時を取り戻す」という意味のリバイバルではなく、昇仙峡という山梨あるいは甲府の宝をどのように次の世代に引き継いでいくのかという視点で議論していただきたいと思います。バブルや団体旅行が華やかな頃の幻影を追いかけるのではなく、これからの令和時代に、我々として地域の宝物をどのように活用し、未来へつなぐのか、そういった視点を共有しながら進めていきたいと思います。

まず、委員及びオブザーバーの皆様の自己紹介も兼ねて、昇仙峡への思いや今後に向けた課題について、一言ずつ頂戴したいと思います。

**【委員・委員以外の者】**

自己紹介及び一言

## 【委員長】

それでは、議事(5)「会議の趣旨について」、事務局から説明をお願いします。

## 【事務局】

「会議の趣旨について」説明

### ― 要旨 ―

- ①本会議のねらいは、課題の整理、やるべき事の整理、昇仙峡の目指すべき方向性の確立・実行であり、これら3つを連動させて取り組んでいきたいと考えている。
- ②本会議においては、課題の抽出・分析・対応策の検討を行う一方で、観光客目線に焦点を置き、諸課題に囚われることなく、観光客の皆様が訪れたい昇仙峡を目指して、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴したい。
- ③2018年度の「日本人の旅行に対する意識調査」によると、「日常生活から解放されるため」、「美しいものにふれたくて」など、昇仙峡及び周辺観光で叶うものもあり、ヒントとなると思う。
- ④2018年に観光庁が調査した「訪日外国人が日本に滞在中に経験したこと」の結果によると、「日本食を食べること」、「自然・景勝地観光」、「温泉入浴」など、昇仙峡及び周辺地域で経験できる内容が上位にランキングしている。
- ⑤昇仙峡とは各種条件が異なるため1つの参考事例に過ぎないが、徳島県三好市の祖谷(いや)地方では、2007年からの10年間で、外国人宿泊者数が約34倍に増加している。祖谷地方までの交通アクセスは良くないが、外国人観光客が増え続けている背景には、「観光客が訪れたい魅力」があるからで、観光客を惹きつける魅力があれば、二次交通などの多少のデメリットはあっても多くの方が訪れる場所になるという事例である。
- ⑥本会議では、策定するプランを着実に実行していくため、検討事項の優先順位などをまとめ、関係者間で共通認識を図ることを考えている。
- ⑦目指すべき昇仙峡の確立と実行に向けて、4つのフェーズを進めていきたい。フェーズ1と2まででリバイバルプランの策定を行い、フェーズ3と4では、実行力の高い組織づくりを目指す。
- ⑧現在、日本遺産への申請を目指しており、日本遺産への申請との関連について、山梨県観光部から説明させていただく。

### < 日本遺産について >

事前協議のため文化庁を訪問した結果、様式4に「将来像」、「自立的継続的な取組みにおける実施体制」、「地域活性化計画における目標と効果」の記載項目があり、この様式4が非常に重要であると認識している。日本遺産の申請に当たっては100以上を超える申請者の中で様々なストーリーがあり、甲乙つけがたい審査になった場合、最後に差がついてくるのが様式4の「実施体制」や「将来像」等であるということである。この点について、本会議の中で確認させていただき、日本遺産の申請に活かしていくことをご承知おきいただきたい。申請の原案については、第2回の会議等で詳しく説明させていただく。

## 【委員長】

ありがとうございました。日本遺産や世界遺産は認定をとることがゴールではないので、昇仙峡が日本遺産になるためではなく、昇仙峡が日本遺産になるというプロセスを通じて、昇仙峡の価値を地元の人が見直すきっかけとするべきだと思います。遺産・ヘリテージという言葉の使い方は、いかにそれを守るかということだけでなく、孫に引き継ぐという意味も込められている。今回の日本遺産への申請が、観光地としての箔付けではないのだということは、現段階で共有しておきたいと思います。昇仙峡がいかに地元にとっての宝物であるか、日本全体から見ても価値のあることか、その価値を共有していきましょう、というのが日本遺産だろうと思います。将来の大事な宝にしていこうということが大きな目的となっていて、そういう意味では昇仙峡を日本遺産にすることを通じて、地元の皆さんがいかに昇仙峡の価値を大事に思い、将来に引き継ごうとしているのかという意思を、様式4に示していく必要があるのだと思います。

地域活性化というのは、遺産になれば昇仙峡に人が来るという話にはならない。我々がこのように組織づくりを行い、このようなプロジェクトを立ち上げ、そして引き継いでいくというプランを、皆さまにもご提示いただきながら、将来に向けたアクションにつなげていけたらと思います。

ここまでで何かご質問はございませんか。ご意見については後でお一人ずつ伺います。

それでは、引き続いて、策定スケジュールについてご説明いただきます。

## 【事務局】

議題(6)「スケジュール(案)について」事務局より説明

— 要旨 —

本会議は、今回を含めて全4回を予定している。会議では、リバイバルプランの策定に向け、積極的な意見交換を行っていただき、来年3月中旬には昇仙峡リバイバルプランの策定を予定している。

また、会議とは別に、年内に調査事業を実施する。調査は、聞き取り調査をメインとし、観光客向け、飲食や宿泊など事業者向け、大学生向けの3種類の調査を予定している。

## 【委員長】

ただいまのスケジュールについてご質問ありますでしょうか。

それでは、引き続き、調査内容について、ご説明をお願いいたします。

## 【事務局】

議題(7)「調査内容(案)について」事務局より説明

— 要旨 —

昇仙峡の現状を把握し、リバイバルプラン策定の材料とするために、3種類のアンケート調査を実施する。

- ①観光客向けの調査としては、11月23日・24日に昇仙峡を訪れている観光客に対して、聞き取り調査を行う。この調査では、観光客の皆様の満足度や改善要望などの意向を正確に把握することを目的とする。
- ②事業者向けの調査としては、昇仙峡と関連のある飲食店、宿泊施設、旅行会社などを対象に、無記名による調査を第2回会議までに実施する。この調査では、昇仙峡に関係のある事業者との連携について、課題やアイデアを出していただくことを目的とする。
- ③大学生向けの調査としては、立教大学及び山梨県立大学の学生の協力を得て、12月4日に昇仙峡においてフィールドワークを行う。この調査では、大学生の視点から見た昇仙峡について、課題となる点や昇仙峡の隠れたポテンシャル、活性化のアイデアなどについての意見を出していただくことを目的とする。

#### 【委員長】

調査内容についてご質問はございませんか。

それでは、資料等の説明は終了となります。この後は、皆様の意見を大事にしながら、決してシナリオ通りにならない、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。それではご意見がありましたらお願いします。

#### 【委員】

新しい昇仙峡をつくっていくためにどうするのか。リノベーションやイノベーションという表現になると思いますが、大勢の人に注目されるような観光地になっていかないといけないので、そのためには我々が工夫するだけではなく、その後、実行計画の段階になったら行政の皆様にも予算付けも含めて応援してもらわないとできないと思う。皆事業者任せというわけにはいかないと。あるいは我々だけではなく、マスコミの皆様にも情報発信の面でご協力をいただいて、県民の関心を高めていただくことも必要だと思います。皆に注目いただいて、外部の意見もこの会で反映できるようになればいいと思います。

もちろん内部の当事者として、事業されている方の意見も重要ですが、外部の事例や意見も取り入れた会にしたいと思っております。

#### 【委員長】

今、リノベーションという言葉が出てきましたが、新しい時代にふさわしい観光地という面と、本質を見失ってはいけないという面と、その両方の面が大事だと思います。時代に合わせるにも、まずもって昇仙峡は我々にとってどういうところなのだろうかという本質の部分と、旅行者から見た商品価値という2手で考える必要があります、これが融合したところにはじめてリノベーションがあると思っております。

時代の移り変わりがあるなかで、今の主役は河口湖かもしれないが、かつての主役は昇仙峡であった。時代の変化に応じながら、一方で地域の宝を維持し、商品価値をその時代ごとにつけていくという考えでいきたいと思っております。

### 【委員】

昇仙峡は昭和から平成にかけて、バスツアーが非常に多かった。そうするとアクティブな旅行ではなく、見る・受け身の旅行になっていた。もう 1 回アクティブな旅行に戻したいと考えている。どうということかという、“歩く”ということの主眼をおかないと、昇仙峡の良さが伝えられない。昇仙峡を活性化させるために“歩く”ことに主眼を置いてどのように整備していくか。歩きやすく、景観を良くして、どこでも溪流に降りられるような、川と親しみやすい環境をつくることで、半日程度滞在できるようにしたい。例えば、欧米のインバウンド・バックパッカー、FITの方から良さを引き出してもらうこともできるのではないか。あらゆる手を使って、昇仙峡の本当の良さをもう 1 回PRしていきたいと思っております。

### 【委員長】

過去の昇仙峡と旅行客との関係について、いい時代と言われるのはバスツアーによって変わってしまったのだろうと言える。昔は歩きながらゆったりと楽しんでいたものが、バスで行ってすぐに帰ってくるという、時間短縮型・効率型のパッケージツアーに変わってしまった。自分も体験したことがあるが、それでは見た気がしない。わざわざ山の中まで来て、30 分で帰ってしまう乱暴なツアーもある。時間短縮型・効率型の日帰りバスツアーが横行している。ここで、時間短縮型から時間消費型へ、価値ある時間を過ごすために昇仙峡へ来たのだという、歩くことを再評価し、観るだけではない、体感するかたちも発信していかなければならない。自然を受け入れるということは、そういうことなのだろうと思う。一方で、旅行客が楽をして秘境を見に行くことを変えるためには、秘境に行くにはわざわざ苦労していかないといけないというような価値づけも同時にしなければならない。先ほどの祖谷の事例の話ではないが、不便だからこそ価値がある、わざわざ苦労した達成感を味わえるようなコースづくりも一つである。ただし、高齢化が進んでいるので、歩く楽しみを安全なかたちで進めていくということも大事である。新しい価値づけの一つとして、“歩く観光”など、そういった意見を反映させながらコースづくりもしていきたい。

### 【委員】

地域連携という言葉の切り口として、甲府や湯村に泊まったお客様だけが昇仙峡に行くのではなく、石和に泊まったお客様も朝一で昇仙峡へ行って次の観光地へ行くというパターンがあってもいいのではないか。また、昇仙峡を信仰の山として誘客につなげられるのではないか。団体向け・個人向け、それぞれのニーズに合わせた内容を作り上げていきたい。

### 【委員長】

今のご意見というのは、マーケティングの観点からするとセグメントの問題で、顧客層は一つではないのだということである。団体の楽しみ方と個人の楽しみ方は違うし、時間的余裕も違う。バスツアーのような数を来てもらおうという意味のツアーと、じっくり楽しむ個人向けのメニュー、両方楽しめるメニューがあることが大事なのだろうと思います。それが観光施設の深さにつながるのだと思います。ここまで便利になってしまった以上、今更個人客しかいないということにはならないので、多

数派であったバスの団体旅行を主力に、もう一度個人客重視で時間の消費を重視する方向でも進めていくと、2つのセグメントに応じた楽しみ方を提案できるかもしれない。客層に合わせた楽しみ方のメニューを考えていくと良いのではないかと、ビジネス的にはそう思います。

#### 【委員】

先ほどアンケート調査を実施するという話がありましたが、個人のお客様に関しては約85%が現状に満足している。非常に高い数値を持って評価を受けていると思います。お客様の要望でいうと、もっとお店が欲しい、食事場所でゆっくりしたい、休むところがほしいというようなアンケート回答が非常に多い。一方で、観光バスで来たお客様のアンケート調査は足りていない。ぜひ昇仙峡全体で検証していくために、観光バスで来たお客様も含めた全面的なアンケート調査も実施してもらえるとありがたい。

各店舗のおもてなしの気持ちはどうだろうか。現状で見ていると30年前の売れ残り商品がそのまま飾ってあるお店もあり、おもてなしに対する勉強不足があるのではないかと。そこが改善されればリピーターのお客様は必ずついてくると思います。自社の従業員にはすべておもてなしの精神を大事にする教育を行っている。個人のお客様の45%がリピーター。しかし、団体のお客様のリピーターの定義が難しい。ツアーで年に3回来るお客様をリピーターと呼んでいいのか。またミステリーツアーで複数回来るお客様もいるが、その場合はお客様がストレスを感じている場合も多い。リピーターを増やしていくためにも、どのような接客をしていかなければならないかということ考えたほうが良いと思う。

今回実施するアンケート調査の内容を見ましたが、これは全面的にやったほうが良いと思います。いま、蕪崎のパーキングエリアでは昇仙峡に行くお客様が非常に多い。なぜ個人のお客様が多いかというマスコミの影響が大きく、10月はお客様の入込について何も感じなかったが、何度かテレビ等で放映されてからは、圧倒的にお客様の入込が増えている。やはり発信というのも大事にしなければならぬと思います。

#### 【委員長】

先ほどセグメントという話をしたかと思いますが、確かに個人客の満足度とツアーの満足度や求めていることは違うのだと思います。時間がないので、どうしても旅行会社等でなければ団体客のアンケートをとることは難しく、そういう意味では実は実態が見えていないということもある。今回はできれば、バスツアーでやってくる人たちが昇仙峡をどう見ているのか、ということが明らかになってくると良いのではないかと思います。

観光資源というのは、何故観光資源というのか。観光行政の方たちが、安易に観光業・観光資源と使い、うちには観光資源はありませんなどと言う観光課の職員がいてはいけないと思っているのですが、それは観光名所という意味ではないでしょうか。資源というのは材料という意味なので、そこにいかに価値付けをして商品化していくかということに、観光ビジネスや観光政策という話が出てくる。もっと大事なものは、なぜ人はそれを観光対象と観るのかという意味付けです。例えば韓流ドラマのロケ地は、韓流ドラマを見ていない人にとっては何の価値もないが、見ている方々にとって

は、そこに有名俳優がいなくてもすごく価値があるように見える。つまり観光というのは、意味を付与して、意味を共有して、意味を消費することなのです。そのように考えると、信仰の山だとか、昇仙峡から富士山を眺めてパワーを浴びるだとかはこれに当てはまります。意味を共有しているからこそ、そこに来るわけです。ただの岩があって綺麗だね、ではなく、信仰や秘境、歩く観光というものをいかに演出するか、昇仙峡でもそこが重要になってくる。ある温泉地の中には、わざと宿泊施設までの道中を舗装していないところもある。送迎バスで 30 分行かないとたどり着かない。しかしそこには意味が付与されている。意味を消費するとは、まさに体で感じていくということだと思う。歩く観光を見直すことや、上に登って富士山を眺めること、パワースポットとは何故パワースポットと呼ぶのかというのを来た人に分かるようにすることはとても必要になると思う。

その意味の連想から、お土産の水晶にも意味ができる。なぜここに来るのかという意味をつくるためにも、秘境・パワースポット・信仰という意味付けにより、昇仙峡とは自然豊かな場所だという以上のものを提案することがすごく大事なことだと思います。よろこび・おどろき・感動というのは、意味付けにあるのではないかと思うわけです。

特にリピーターの人たちは変化を好んでいます。リピーターづくりは難しいと言いますが、昇仙峡ファンになり何度も来たくなるかどうかは、その意味が共有できているかどうかだと思います。そのためにはやはり、質の高い観光体験が必要なのではないでしょうか。

1時間でバスに戻ってください、といったようなバスツアーではファンにはなれません。ファンづくりのためには何が必要か。ただ、ご飯を提供すればいい、ソフトクリームを売れば良いという話ではなく、ここに来ないとあの美味しさはわからない、というような体験ができるかがポイントだと思います。ある道の駅の方は、「地産地消を押し付けたって観光客は寄ってこないよ。そこにどうやって価値付けをしてそこにもう一回来る意味を作るかが大事なのだ。」と仰っています。ああその通りだと思いました。もちろんその道の駅は日本有数の道の駅になりましたが。そんなふうに工夫の部分、モノではない、コトで勝負ですから、その意味では感動とか驚き、質の議論として、来る人の数だけではなくファンづくりとして、量ではない、質、いかに昇仙峡が質の高い経験価値が提供できるかという課題を議論していただきたいなと思います。

#### 【委員以外の者】

二次交通を整備したり、新しい文化を作ったりするのではなく、かつて私達が忘れてしまった価値を取り戻すことで、昇仙峡に多くの人々を連れてくることではないかなと思います。その中で何か大学生が出来ることがあれば、それをすることによって、住民としての役割を果たすことができるのではないかと考えます。

#### 【委員長】

未発見、忘れてしまった価値というのがあるのではないのか、それを見つけ出すのもやはり、意味のあることなのではないでしょうか。そしてやはり、学生たち、若い力をという以上に、地元の住民としての自覚というものを作り出すという意味でこれはもう山梨の宝ですよと、県民として、市民としてそういう実感をするために、自分たちも地域の手伝いをしていきたい、そんなイベントがあっても



いいのではないかと思います。

私達の大学の学生の話ですが、埼玉県のとある道の駅で4～5年前から夏祭りをやっていて、自分たちで実行し、非常に道の駅も繁盛した。そういう、ある意味では県内、市内の学生達が昇仙峡で出来る仕掛けというものがあって、それはお客様を呼ぶための賑わいづくりのためではなく、自分たちがこの宝物をどう評価し、どう盛り上げていきたいかを自覚する機会として、是非考えていただきたいなと思います。

#### 【委員以外の者】

あるべき姿と現状の差を埋めるための施策が大切だと思います。先程、連携というお話がありましたが、銀行としては結び付ける力が強みですので、そういったことに関してお役に立てると考えております。出来ることで、地域の活性化に貢献したいと考えております。

#### 【委員長】

本当に地銀さんの役割は大きくて、ある県の例なのですが、廃業した古い旅館をある人が購入したのですが、それに地銀がのってリバイバルプロジェクトをやったのけるのです。その県内のデザイナーだとか、関連の人が皆集まって、投資をするプロジェクトを作って再生していくという物語が実はあるのです。そういう意味でいうとプラットフォームを作れる人材がいるとすごく大きいし、県内の事業者さんもよく知っておられるので、これがやりたかったらこういう人が集まるよ、というプラットフォームづくりを、実行段階になったら是非支援していただきたいなと、思います。

#### 【委員以外の者】

今回の中で、日本遺産の登録というお話がございましたけれども、非常に大きなきっかけづくりではないかと思っております。というのは、我々は地元ですから昇仙峡の成り立ちから何から、当然知っていますが、全国的には殆ど知られてないのではないかと思っております。山岳信仰の話とか、特に宝飾産業、このようなことを日本遺産登録によって、全国的にも知らしめていくことが出来るという意味で、この登録については大変意義があるのではないかなと思います。

もう一つは、インバウンド観光についてです。いろんなテレビの特集がよくやっておりますが、結局注目される観光地というのはインバウンドの勝ち組だと思います。外国人が色々集まってきて、マスコミが取り上げるというケースが多い。こういう意味で、インバウンドの勝ち組にならなくてもいいが、負け組のままでは、取り上げて貰う機会が減ってしまうのではないのでしょうか。一番単純な話は多言語化なのですが、基盤整備をしていただければありがたいかな、と感じております。

#### 【委員長】

日本遺産とインバウンドということだったのですが、日本遺産ということの意味を、これをきっかけに我々が考えよう。一回あるところがポシャってもう一回となった時に、国から「日本遺産を取れば観光地として客が来るのではないかという思いだったら受け付けないよ。」と、ピシャツと言われていたわけ。「そうじゃないんだ。」と、「これは後世に残すべき価値があるんだ。」という理念に共感

し、だからこそ初めて自分たちの宝を登録するために申請するんだと、そういった考え方が重要。そういう意味では、地元の学生たちが、あるいは地元の人達が、逆に地元の人の評価ってどうなの、というご意見もあったと思います。改めて昇仙峡ってどんなところなのか、自分たちにとってどれだけ大事な宝物なのかを考え、大事だからこそ、県がやっってることに賛成するよね、という県民のコンセンサスという共感を得ていくということが大事かと思います。世界遺産に登録されたからと言って大勢やって来ると思ったら大間違いです。半分くらい名前に惹かれて来る人はいますが、冷やかな目線を持っている人もいます。そういうことも踏まえて、これはゴールではなくて、我々が自分たちの地域の宝を見直す機会なのだ、再評価する機会なのだ、という捉え方をしなければならないのだと思います。

また、これはインバウンドと日本人とのバランスをどう考えるかという話です。インバウンドは 4 兆 5,000 億円ほどの規模までになっているし、3,120 万人までになりました。しかし、旅行消費額でいえば、日本人は 20 兆円使っているわけです。まだまだ日本人客が主力なのだということを、我々は絶対に忘れてはなりません。成長マーケットはインバウンドだけど、成熟したとはいえ、大多数は日本人です。日本人を大切にしつつ、新しく入ってくるインバウンドの人たちにどう対応していくか、というふうに考えなければなりません。

どんなに日本の人口が減ると言っても、20 兆円が 10 兆円になり、インバウンドが 15 兆円に跳ね上がるなんてことはありません。消費額を考えても、価値を伝えるということでも、地元の人をもっと大事にしたほうが良いと思います。地元の人達、日本人、インバウンドの人たち、それぞれに応じたプラン、考え方を出すべきかなと思います。

今回のプランを作るに当たり、きめ細かさが大事かと思います。

#### 【委員】

行政の皆様をお願いしたいことがあります。我々も貴重な時間を使っているのだから、結局時間の浪費になるような、予算がないからできないというのはぜひやめていただきたい。それから、我々が検討したことは実現していただきたい。最終的に、あまり実効性がないようなものにならないよう、耳が痛いかもしれませんが是非お願いしたいです。

なぜこんなことを言うかという、私どもとして 4 年前から昇仙峡のライトアップに合わせてシーズンごとに無料のバスを運行しております。これは我々の組合のお金で運行しているのですが、それ相応にかかるので大変です。昇仙峡と湯村を盛り上げようとしてやっているのですが、一向に市も県も予算や補助金を用意してくれるというようなことは一切ないです。一方で入湯税を取るだけ取って、それを何に使っているのかというと、一般財源に充てているということで、観光の力には何もなっていないと。宿泊税の問題もあります。市にも県にも、観光に関してもうちょっと真剣に取り組んでもらいたいと思います。一度やったからいいではなく、これを機に継続していただきたいと思います。過去と同じようなことではなくて、しっかり観光に対してある程度予算を持って頂いて、山梨の観光地をきちんと育てていきたい。他の県に対して負けるようなことがあれば、非常にまずいので、ちゃんとやっていただきたいと思います。

#### 【委員長】

行政の役割と、地域、業者の役割は色々あると思います。

旅行会社に頼めば客が来るという時代は終わっていて、平成の大きな転換というのは、自分たちで何かしなければ変わらないのだ、という自覚が広まった時代だと思います。「まちづくり」という言葉を使う意味というのは、「市長何やってるんだ、知事何やってるんだ」と市民が言うようではおしまいだと私は思っております。皆さんが何をやるかなんですよ、っていうことが実際に、だから「まちづくり」というふうになっているわけです。例えばハード整備に関しては、県や市がお金をかけ環境整備をする。ただしそれを活かすソフトウェア、アイデア、ビジネスプランというのは当事者の方が未来に向けて考える、あるいは市民の皆さんが自分たちの宝物をどうやって大事にしていくかという意識を再認識して進めていくことが必要である。それぞれの役目を考えなければ押し付け合うだけになってしまうかもしれない。そういう意味では、令和の時代にふさわしいような昇仙峡のあり方、未来に向けての引き継ぎ方を、皆様それぞれの立場でご議論いただきたいなと思います。

行政の皆様も、事業者の皆様も、どの立場でも結構ですけど昇仙峡に関わるという意味では同じテーブルなので、是非未来に引き継ぐ昇仙峡という意義を共有しながら先に進めたいなと思います。

#### 【委員】

今日出た意見は総論と言うか概論のような話で、次回から具体的な話が進んでいくとは思いますが、しかし、そもそもこの会議は市長さんに主催していただいて、私どもの立場としても当事者がこれだけの危機感を持っているのに、行政も、市民も、それを議論している様子が今までありませんでした。それを今回このような形で実現して、スケジュールを出して、何らかのまとめを出して実行していこうと、この道筋をつけていただいたのは本当にありがたいです。そのことに応えるように次回の会合からは、具体的で実効性のあることを議論していただきたいです。

#### 【委員長】

他はよろしいですか。それでは、事務局から事務連絡について説明をお願いします。

#### 【事務局】

次回の第2回会議では、アンケート調査の結果報告とともに、中間案を提示させていただきます。

なお、この中間案で取りまとめた内容は、来年1月下旬の日本遺産の申請に活かしていきたいと考えております。

第2回会議については、来年1月8日(水)の開催を予定しております。

#### 【委員長】

ありがとうございました。それでは、次回、1月8日(水)に、実施済みのアンケート調査を踏まえた、議論をさせていただきたいと思います。

**【事務局】**

委員長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「第1回 昇仙峡リバイバル会議」を終了させていただきます。ありがとうございました。